



日本医師会

赤ひげ大賞

地域で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」(主催・日本医師会、産経新聞社)が創設から8年目を迎えた。超高齢社会における地域医療の重要性が増すなか、日本医師会の横倉義武会長と、特別協賛3年目となった太陽生命保険の副島直樹社長に、この賞の意義や地域医療の果たすべき役割について語ってもらった。

(司会・産経編集センター 道丸摩耶)

寄り添う気持ち 若い世代に

日本医師会会長 横倉義武氏 × 太陽生命保険社長 副島直樹氏

よこくら・よしただけ 昭和19年8月9日生まれ。久留米大医学部卒。平成18年、福岡県医師会会長に。22年から日本医師会副会長を務め、24年4月から現職。

そえじま・なおき 昭和33年11月20日生まれ。慶応大商学部卒。56年、太陽生命保険入社。執行役員営業企画部長、副社長などを経て、平成31年4月から現職。



「第5回日本医師会 赤ひげ大賞」のレセプションで、受賞者に声をかけられる皇太子さま(当時) 平成29年2月(菊本和人撮影)



「第7回日本医師会 赤ひげ大賞」表彰式後のレセプションであいさつする安倍晋三首相(左) 平成31年3月



医学生(左)からの質問に答える第7回赤ひげ大賞受賞者 平成31年3月

過去7回の選考で、これまでに37人(特別賞を含む)の赤ひげ先生が誕生しています。横倉氏 受賞者は皆素晴らしい先生ばかりです。ありがたいことに1回目、5回目の表彰式には当時、皇太子さまだった天皇陛下にご臨席をたまわり、受賞者も非常に感激していました。地域の人も、かかりつけの先生が赤ひげ先生に選ばれると自分のことのように喜んでくれるようです。副島氏 地域の患者さんとかかりつけ医の絆が感じられますね。横倉氏 はい。医療は人が人に行う業です。人間関係は何事も信頼がないとうまくいきませんが、医療は特にそうです。提供する側と受ける側がお互い信頼できる関係を作っていくことが非常に重要なことです。

人生100歳時代となり、医療に求められるものも変わってきています。横倉氏 今から70年前の平均寿命は50歳前後でしたが、今や男女ともに80代です。長生きをする上で、できるだけ健康でいることが大事になりますし、私たちがその後押しをしていきたいと思っています。健康寿命をできるだけ延ばすという意味でも、地域の人々の健康を守るかかりつけ医の役割は、ますます大きくなっていきます。この医療機関を受診すればいいか分からないという話をよく聞きますが、かかりつけ医がいれば、その先生から紹介してもらつことも可能になりますし、ぜひ若い人たちにもしっかりつけ医を持つてもらいたいと思います。副島氏 健康寿命延伸のため、太陽生命として取り組んでいることはあります。副島氏 当社は創業以来、126年にわたって時代の変化に合わせた商品やサービスを提供し、ご家庭のお客さまに寄り添い続けてきました。生命保険業は社会保障を補完する役割を担っており、人生100歳時代の到来という社会構造の大きな変化に伴い、社会保障のあり方や家庭の不安、保険会社が担う役割も変わってきています。病気になつたらお支払いするという従来の役割だけでなく、これからは病気の予防をサポートし、お客さまの元氣・長生きに貢献するという新しい役割が重要になっていくでしょう。

健康寿命の延伸後押し かかりつけ医は「財産」

副島氏

横倉氏 私たちは全国でさまざまなイベントや活動を行っています。その中で地域の赤ひげ先生や医師会の先生方に協力いただき、自分自身の健康を考えていく機会をつなげていきたいと思います。副島氏 私たちは全国でさまざまなイベントや活動を行っています。その中で地域の赤ひげ先生や医師会の先生方に協力いただき、自分自身の健康を考えていく機会をつなげていきたいと思います。横倉氏 まだまだ全国各地に素晴らしい赤ひげ先生がたくさんいるので、できるだけ顕彰していきたい。海外でがんばっている医師もいずれば本賞の対象にしていきたいですし、何より本賞を続けることで患者さんに寄り添うという気持ちを、これから医師を目指す若い世代に引き継いでいきたいと思います。副島氏 今後は赤ひげ大賞を継続していくことが大切だと思います。引き続き、実際に仕事をしているプロフェッショナルとしての赤ひげ先生の姿を、より多くの方に伝えていけるように協力したいと思います。地域医療、かかりつけ医の存在は日本の財産だということに気づいてもらいたいです。横倉氏 まだまだ全国各地に素晴らしい赤ひげ先生がたくさんいるので、できるだけ顕彰していきたい。海外でがんばっている医師もいずれば本賞の対象にしていきたいですし、何より本賞を続けることで患者さんに寄り添うという気持ちを、これから医師を目指す若い世代に引き継いでいきたいと思います。

はついていたっている先生の思い、そこに一生をささげられる理由などを知る貴重な機会になると考えています。副島氏 第7回の表彰式では、医学生から赤ひげ先生に質問する時間が設けられましたよね。赤ひげ先生が人生をかけて行ってきたことを若い医学生に伝える姿は、とても素晴らしい「生きた教育」であり、後進を育成していくことが大切だと感じました。今後は赤ひげ大賞に期待することはあります。副島氏 今後は赤ひげ大賞を継続していくことが大切だと思います。引き続き、実際に仕事をしているプロフェッショナルとしての赤ひげ先生の姿を、より多くの方に伝えていけるように協力したいと思います。地域医療、かかりつけ医の存在は日本の財産だということに気づいてもらいたいです。横倉氏 まだまだ全国各地に素晴らしい赤ひげ先生がたくさんいるので、できるだけ顕彰していきたい。海外でがんばっている医師もいずれば本賞の対象にしていきたいですし、何より本賞を続けることで患者さんに寄り添うという気持ちを、これから医師を目指す若い世代に引き継いでいきたいと思います。



日本医師会の横倉義武会長(右)と太陽生命の副島直樹社長(納富康撮影)

日本医師会 赤ひげ大賞
日本医師会と産経新聞社が共同で、地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績をたたえて広く国民に伝えるとともに、次代の日本を支える地域医療の大切さをアピールする事業として平成24年に創設された。全国の都道府県医師会から推薦された、病を診るだけではなく地

域に根付き、その地域のかかりつけ医として生命の誕生からみとりまでさまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師から、選考委員会で毎年5人を選定し表彰している。江戸時代の小石川養生所を舞台に庶民の人生模様と「赤ひげ」と呼ばれる所長と青年医師の心の交流を描いた山本周五郎氏の『赤ひげ診療譚』にあやかって名付けられた。



業界初 ひまわり認知症 予防 保険

保険で、
認知症を
予防!?



※当広告では選択緩和型認知症診断保険に生存給付金特則を付加したプランを「ひまわり認知症予防保険」としてご案内しています。状態継続日数の要件がなく、所定の認知症と診断された時に保険金を主契約でお支払いする生命保険は業界初です。(2018年7月現在、当社調べ)

【資料のご請求は】 太陽生命お客様サービスセンター 0120-04-22-33 (通話無料)

営業時間:月~金 9時~18時/土・日 9時~17時
※祝日・年末年始(12/30~1/4)は休業します

https://www.taiyo-seimei.co.jp/

太陽生命

検索

